

# 平成 22 年 10 月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 22 年 10 月 28 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

## 今月のトピックス

細菌性赤痢の感染が同一家族内に認められました。  
流行性耳下腺炎が過去 5 年間との比較では多めです。  
病原体定点からインフルエンザ A 香港が 3 件検出されました。  
RS ウイルス感染症の報告が多めです。

## 全数把握の対象

1 **細菌性赤痢**: 10 月の報告数は、28 日現在で 3 件です。1 件はフィリピンでの感染と思われませんが、2 件は、渡航歴のない家族例です。疫学調査の結果と発症日より、家族内感染も疑われます。細菌性赤痢は、10～100 個と少ない菌量でも感染するので、二次感染も認められます。感染予防としては、食材の十分な加熱と石鹸による手洗い励行のほかに、海外では更に生水を避け、渡航先の流行状況の把握が大切です。

海外渡航のご予定の方は、こちらをご参考ください。

外務省 海外安全 HP ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

また、細菌性赤痢についてはこちらをご参考ください。

国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/disease/shigellosis/2009sokuho.html>

2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10 月の報告数は、28 日現在では 9 例 5 事例です。感染源が特定された例はありませんでした。発生時の対応につきましては、こちらをご参考ください。

横浜市衛生研究所 HP: [http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infoc\\_o157\\_guide.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infoc_o157_guide.html)

3 **デング熱**: 10 月の報告数は、28 日現在で 1 例です。インドネシアでの感染と思われます。ウイルス型は 2 型でした。国内での報告数は、平成 21 年には 92 例でしたが、22 年では 10 月第 41 週(10 月 17 日)で 204 例であり、過去 10 年間でも最大の報告となっています。デング熱についてはこちらをご参考ください。

国立感染症研究所 デングウイルス感染症情報 <http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>

4 **A 型肝炎**: 10 月の報告数は、28 日現在で 1 例です。韓国での感染と思われます。A 型肝炎の国内状況についてはこちらをご参考ください。

国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/368/inx368-j.html>

5 **アメーバ赤痢**: 10 月の報告数は、28 日現在で 4 例です。全て男性でした。アメーバ赤痢に関してはこちらをご参考ください。

横浜市衛生研究所 HP <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html>

6 **急性肝炎(B 型)**: 10 月の報告数は、28 日現在で 1 例です。性行為による感染と思われます。B 型肝炎に関しては、こちらをご参考ください。

国立感染症研究所 HP [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/K04\\_15/k04\\_15.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/K04_15/k04_15.html)

7 **HIV 感染症**: 10 月の報告数は、28 日現在で 3 例です。すべて男性であり、すべて性行為感染と思われます。全国でも感染者の 88% が日本国籍男性であり、日本国籍男性の HIV 感染者のうち同性間性的接触(両性間性的接触を含む)によるものは 74% です。HIV 感染症に関しては、依然として治癒に到る治療法が無い現状の中で、日本人男性の同性間での性的接触による感染は増加しており、今後感染予防と早期発見の更なる対策が必要です。平成 21 年の現状についてはこちらをご参考ください。

国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/366/tpc366-j.html>

8 **麻疹**: 10 月の報告数は、28 日現在で 4 例です。すべて臨床診断によるものです。2 例はワクチン接種歴はありませんでした。麻疹は、重篤な後遺症が見られたり、時には死にいたる疾患です。対象年齢児への確実な予防接種の実施が望まれます。

## 定点把握の対象

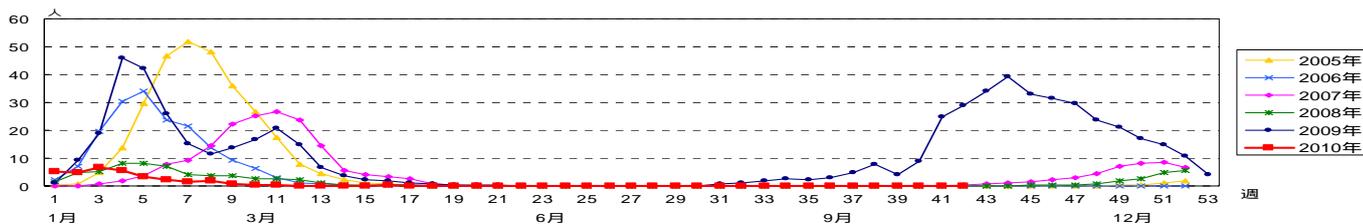
平成 22 年 9 月 20 日から平成 22 年 10 月 24 日まで(平成 22 年第 38 週から第 42 週まで。ただし、性感染症については平成 22 年 9 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 22 年 週 - 月日対照表

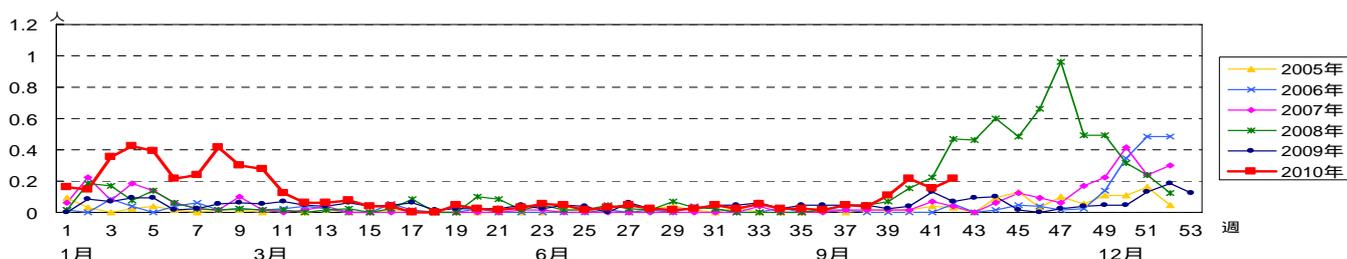
第 38 週	9 月 20 ~ 26 日
第 39 週	9 月 27 ~ 10 月 3 日
第 40 週	10 月 4 ~ 10 日
第 41 週	10 月 11 ~ 17 日
第 42 週	10 月 18 ~ 24 日

1 **インフルエンザ**: 第 42 週の定点あたりの報告数は 0.12 でした。

市内の届出は 15 件あり、うち 14 件が迅速キットで A 型でした。定点あたりの報告数は、全国でも 0.12、神奈川県(横浜、川崎、相模原を除く 以下県域)では 0.12、川崎市では 0.11、東京都では 0.19 と何れも低い数値です。第 40 週に、沖縄県が定点あたり 1.16 と、流行の目安である「1」を超えましたが、第 42 週には 0.76 と「1」を下回っています。市内病原体定点から、A 香港が 3 件検出されています。

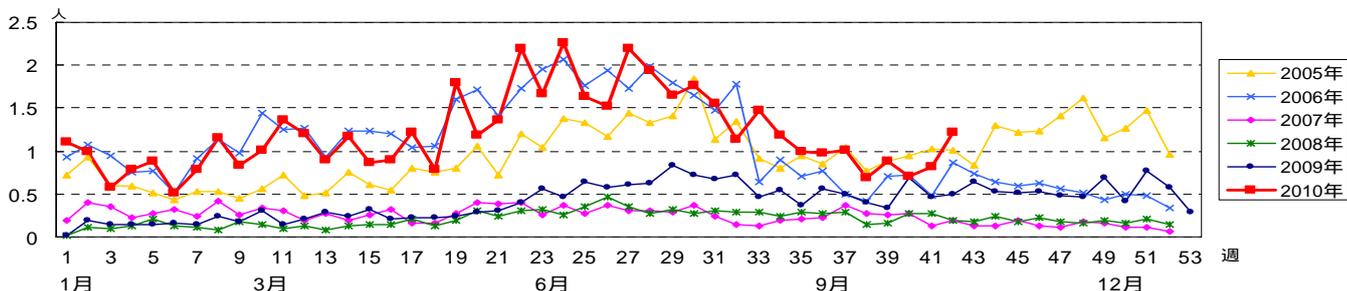


2 **RS ウイルス感染症**: 第 42 週の定点あたりの報告数は 0.20 でした。行政区別では港北区と中区が、いずれも 1.00 と少し高めです。全国では 0.34、県域 0.15、川崎市 0.06、東京都 0.18 でした。RS ウイルス感染症は、インフルエンザと並ぶ冬季の小児の重要な疾患です。今後の動向に注意が必要です。



3 **感染性胃腸炎**: 第 42 週の定点あたりの報告数は 3.00 でした。行政区別では瀬谷区が 10.33、磯子区が 5.33、旭区と緑区が 5.00 と少し高めです。全国では 3.70、県域 4.30、川崎市 5.33、東京都 4.36 でした。

4 **流行性耳下腺炎**: 第 42 週の定点あたりの報告数は 1.21 でした。過去 5 年との比較では高めに推移しています。全国では 1.21、県域 1.11、川崎市 1.27、東京都 0.47 でした。



5 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 10 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 17 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

9 月は、性器クラミジア感染症は男性 15 例、女性 9 例、性器ヘルペスウイルス感染症は男性 9 例、女性 9 例です。尖圭コンジローマは男性 5 例、女性 3 例、淋菌感染症は男性 13 例、女性 4 例が報告されています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>